新潟港

新潟県交通政策局港湾整備課

〒950-8570　新潟市中央区新光町４番地１
☎025-280-5466
URL：http://www.pref.niigata.jp/kowanseibi/

1. 概況

国際拠点港湾新潟港は、古い歴史を持つ信濃川河口港の「西港区」と臨海型工業港の堀込式港湾の「東港区」から成り立っている。

〈沿革〉

西港は、平安時代から貢納物を京へ送る際の積出港であり、諸物資の集散地であった。江戸時代には、西廻り航路の寄港地に指定されたことから大きく飛躍し、明治元年（1868）には安政条約による5港の1つとして開港した。開港当初は信濃川上流からの流砂による河口埋没のため、外洋船の航行が阻害され貿易は低迷したが、信濃川改修工事と河口浚渫が施工されたことにより機能回復が図られた。

以来、日満連絡の基幹航路として終戦時まで農産物、鉱産物の輸入や兵員、移民等の輸送に重要な役割を果たした。

第2次世界大戦による機雷投下の影響等のため港勢は著しく衰退し、廃港寸前の状況に陥ったが、昭和27年に航行安全宣言が行われ、港勢も伸展した。昭和39年（1964）に発生した新潟地震で港湾施設は壊滅的な被害を被ったが、僅か2年間で復旧を完了し、取扱貨物量も外貿航路の就航等もあり順調な推移を見せた。昭和42年（1967）には日本海側初の特定重要港湾に指定された。

東港区は、西港区周辺の都市化が進み港湾の拡張が困難なことから昭和38年（1963）に日本海沿岸の工業開発の拠点として整備が進められ、昭和44年（1969）に開港した。新潟港は昭和42年（1967）には日本海側初の特定重要港湾に指定され、平成23年（2011）には、国際拠点港湾に位置付けられた。

〈現況と将来計画〉

西港区は、佐渡航路のほか小樽との間に20,000トン級の国内最大級の長距離フェリーが就航しており、首都圏と北海道を結ぶ物流の基幹航路として重要な位置を占めている。

万代島地区では、環日本海地域の国際交流拠点として、国際会議場、国際見本市展示場などが平成15年（2003）に開業し、世界との活発的な交流を進めている。

その他、港口の連絡道路として日本海側で初めての沈埋工法による新潟みなとトンネルが平成17年（2005）7月に全線開通した。

西　港　区

東　港　区

東港区の一帯は新潟東港工業地帯に位置し、工業地帯の全体計画面積1,533haのうち905.5haが工業港区となっており、鉄鋼、石油、電力、機械、電気等の企業が操業している。

また、石油備蓄、LNG処理の施設が整備されており、我が国のエネルギー対策の一翼を担っている。

さらに対岸貿易では昭和55年（1980）のロシアボストチヌイとのコンテナ定期航路の開設以来、貨物の順調な推移とともに航路も増え、現在は釜山航路、青島、大連、上海を結ぶ中国航路などが就航している。

また、日本海側最大の取扱量を誇る国際コンテナターミナルを有し、3万トン級コンテナ船が接岸可能な-12m岸壁と-10m岸壁の3バース、ふ頭の総面積28haが供用され、東アジアを中心とした物流拠点としての機能強化が図られている。

このように新潟港は、交通・物流拠点として重要な役割を果たしているほか、人・もの・情報の集まる国際交流の拠点、また都市機能と一体となった新たな港湾空間として機能している。2019年には開港150周年を迎え、今後より一層の発展が期待されている。